

(2) 華中

105 昭和12年7月20日

在中国川越大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中国政府の対日態度硬化に鑑み揚子江沿岸在

留民などに対し臨機引揚げを實行しうるよう

關係方面へ至急準備を訓令方意見具申

南京 7月20日午後發

本省 7月21日午前着

第五五六號(至急、極秘)

今次北支事件發生以來本邦官民在留各地ニ於テハ支那側地方當局力出來得ル限り事端ヲ起ササラントスル努力モアリ且ハ支那官民共ニ時局ノ重大性竝ニ擴大ノ可能性ニ關シ充分ナル認識ヲ有セサリシ如ク今日迄寧ロ存外ニ平靜ヲ持シ來レル模様ナル處時局ノ推移ヲ見ルニ北支ニ於テ我軍側ト廿九軍側トノ解決交渉相當進捗シツツアル一方我方ト南京トノ關係ハ逐日急迫シ殊二十九日外交部ノ日高參事官ニ對スル備忘録(大臣來電合第五九六號)同夜蔣介石ノ談話等ニ窺ハルル如ク今ヤ日支全面的衝突ノ危機ヲ孕ミ來リ而モ一

且北支ニ於テ支那軍隊殊ニ中央軍ト兵火ヲ交ヘンカ意外ニ早ク各地ニ動搖カ波及スル惧多分ニアル様認メラルルニ付テハ既ニ御氣付カト存セラルルモ奧地特ニ長江沿岸在留官民ニ對シ必要ニ應ジ臨機引揚げヲ迅速ニ實行シ得ル如ク準備方至急御訓令相成ルコト然ルヘキ時機到來セルモノト存セラル(不在)

北平、在支各領事(總領事ヲ含ム)、蘇州、蕪湖へ轉電セリ

106 昭和12年7月20日

広田外務大臣より  
在中国川越大使宛(電報)

事変が拡大し揚子江沿岸居留民の引揚げを必

要とする場合の措置振り訓令

本省 7月20日午後10時發

第一四〇號(極秘)

北支事變擴大シ萬一長江沿岸居留民ニ引揚げヲ命スルノ要アルニ至ル場合ハ貴大使ノ裁量ニ依リ九江、蕪湖、南京、蘇州、杭州各管内ノ居留民ニ付テハ上海總領事ヲシテ又漢口上流ノ居留民ニ付テハ漢口總領事ヲシテ夫々出先領事及軍側ト緊密ナル連絡ヲ取り時期ヲ誤ラス必要ナル措置ヲ採ラ

シメラレ度ク引揚先ニ付テハ機宜ノ指示ヲ與ヘラレ差支ナ  
キモ一應下流ハ上海ニ、上流ハ漢口ニ收容スルヲ適當ト認  
ム

本件カ事前ニ洩ルルニ於テハ一般居留民ニ不必要ノ動搖ヲ  
與フルノ虞アルヲ以テ最後迄貴大使及上海漢口兩總領事限  
リノ含ミトセラレタク只上海及漢口ニ對シテハ引揚者收容  
ノ方法ニ付豫メ十分ナル講究ヲ遂ケ置ク様連絡シ置カレタ  
シ  
軍、遞信省トモ打合濟

訓令トシテ漢口及上海ニ轉電アリタシ

107 昭和12年7月21日 在漢口松平(忠久)総領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

揚子江流域の邦人婦女子および奥地全居留民  
の引揚げを中央へ具申したとの海軍第十一戦  
隊参謀の内報について

漢口 7月21日後発  
本省 7月21日夜着

第二五一號(至急、部外祕)

二十一日當地碇泊第十一戦隊先任参謀重永中佐ノ内報左ノ  
通り

一、十一戦隊ニ於テハ重慶碇泊艦比良ニ對シ二十一日同地居  
留民引揚準備ノ命令ヲ發シタルカ(後刻内報ニ依レハ準  
備完了シ十時間以内ニ引揚ヲ爲シ得ル由)一方宜昌碇泊  
艦ニ見ヨリハ二十一日居留民ノ引揚完了セル旨ノ通報ア  
リタリ

二、尙十一戦隊ニ於テハ(イ)揚子江流域邦人婦女子全部ノ引揚  
(ロ)奥地ノ居留民全部ノ引揚方ニ關シ二十一日第三艦隊へ  
具申シ中央へ通報セル趣ナリ

支、在支各總領事、北平、九江、長沙、沙市、宜昌、重慶  
(宜カ)  
へ轉電セリ

108 昭和12年7月21日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

海軍側要請の揚子江沿岸居留民引揚げに関し  
方針回示方請訓

上海 7月21日後発  
本省 7月22日前着

第五八〇號(至急、極秘)

支發貴大臣宛電報第五五六號二關シ

二十一日朝第三艦隊參謀長ヨリ極秘含ミヲ以テ本官ニ對シ  
長江沿岸在留民竝ニ警備艦ノ引揚實行方意見ノ表示アリタ  
ルニ付前者ニ付テハ未タ現地ニ不穩狀態發生シ居ラサル如  
キヲ以テ兎毛角モ冒頭電報ニ對スル本省ノ回訓到着ヲ俟チ  
中央ノ肚ヲ知りタル上處置スルモ遲カラスト思考スル旨述  
へ置キタルカ午後第十一戰隊司令官ヨリ三艦隊ニ對シ漢口  
上流各地ノ引揚ノ通(知)ヲ要スルニ付同司令官ヨリ右命令  
ヲ下シ差支ナキヤノ問合ノ次第アリタル趣三艦隊側ヨリ追  
報アリ右ニ對シテハ當方トモ打合ノ結果中央ノ訓令ヲ待ツ  
様回示スルコトトシ度キ趣ナルモ前記海軍側ノ事情ニモ鑑  
ミ至急方針御決定ノ上當方ノ措置振御垂示相成様致度シ  
支、北平、天津、漢口、長沙、宜昌、沙市、重慶へ轉電セ  
リ

109 昭和12年7月22日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

漢口居留民の引揚げに関する対処方針請訓

第二五七號(至急、極秘)

在支大使發閣下宛電報第五五六號二關シ

一、當方面空氣ハ往電第二四九號所報ノ通り多少動搖ノ色見  
エ就中蔣介石ノ第二次談話發表後支那人有識者間ニ事件  
ノ重大性ヲ認識シ其ノ擴大性ヲ信スル者漸ク多ク沈鬱ナ  
ル空氣市面ニ横溢シ居ルヤニ看取セラレ右ノ點ニ關シ英  
米總領事ノ如キモ本官ノ意見ヲ徵シ來レル有様ナル處一  
方支那側當局ニ於ケル取締ハ往電第一七九號何成濬及吳  
市長ノ本官ニ對スル明言竝ニ黃紹竑ノ傳言ニ僞ナキカ如  
ク今日迄邦人中直接ニモ間接ニモ危險ヲ感シ居ル者之ナ  
キノミナラス過般同盟通信漢口支局ノ支那人翻譯員カ漢  
奸ノ嫌疑ニテ逮捕セラレタル際本官ヨリ警備司令部ニ對  
シテ交渉後僅々一時間ニテ釋放セラレタルカ如キ又北上  
ノ途ニアル多少ノ軍隊カ軍宿ノ爲江漢中學附近ニテ交通  
ヲ禁止セル際ニモ電話ニテ交渉後聞モナク解決ヲ見タル  
カ如キ蘆溝橋事件以來今日迄ニ於ケル支那側ノ言動ヲ仔  
細ニ檢討スルニ治安ノ維持ニ汲々トシテ苟モ當方面ニ於

漢口 7月22日後發  
本省 7月22日夜着

テハ日支間ニ新ナル事件ヲ惹起セシメサル様充分警戒且  
努力シ居ル模様ナリ

- 二、翻テ支那側作戰上ノ見地ヨリ見ルモ當地ハ北上部隊ノ起  
點トシテ將又前線部隊ノ大兵站部トシテ最モ重要ナル土  
地柄ナルニ鑑ミ支那側ハ當地ノ治安ニ動搖ヲ來スカ如キ  
措置ハ極力之ヲ避クル方針ナルハ想像ニ難カラサル一方  
最近陸軍側ニ於テ傍受セル情報ニ依レハ蔣介石ハ各省主  
席ニ對シ外國人(勿論日本人ヲ含ミ居ルモノト察セラル)  
ノ保護方ヲ嚴命シ居ル趣ニテ當館蒐集ノ情報ヲ綜合スル  
モ言論機關ニ對シ刺戟の記事ノ登載ヲ禁止シ愛國の諸團  
體ノ行動ニ對シテモ常軌ヲ逸セサル様充分注意ヲ與ヘ居  
リ只管治安維持ニ專念シ居ルヲ窺ヒ得ヘキカ如シ
- 三、<sup>(2)</sup>依テ當地ニ於ケル引揚げ問題ヲ云々スルハ時機尙早ナル  
ヤニ思考セラルル次第ナルカ假ニ引揚げノ原因トナルヘキ  
モノヲ豫想スルニ
- (イ)華北事件擴大シ敗竄兵等カ當地ニ入込ミ支那側當局ニ  
治安維持ノ能力缺如シテ混亂狀態ニ陥リタル場合
- (ロ)戰鬪ノ擴大ニ伴ヒ支那側ノ抗日意識昂マリ當地海軍側  
殊ニ陸戰隊トノ間ニ衝突ヲ惹起スル場合

(ハ)支那側ニテ宣戰ヲ布告スル場合

- 等ニシテ(ロ)ノ場合最モ懸念セラルルモノ何レニセヨ陸戰隊  
乃至警備艦アルカ爲ニ早日ニ引揚げヲ考慮セサルヘカラサ  
ルカ如キ奇現象ヲ呈シ居ル次第ナル處一方天津軍ハ内地  
派遣部隊ノ派遣ヲ待テ八月初旬ヨリ行動ヲ開始セントス  
ル意嚮ナルコト明白ニシテ第二次豫定線タル石家莊迄進  
出スル前或ハ意外ニ早く引揚げヲ要スルヤモ測リ難キヲ以  
テ引揚げノ場合ニ於ケル船舶ノ調査、糧食ノ買付等ハ民團  
ヲシテ極秘裡ニ準備セシメタルモ在留民ノ動搖ヲ恐レ今  
日迄發表ヲ見合セ置キタル次第ナリ

- 四、然ルニ冒頭電ノ次第モアリ南京竝ニ上流方面ノ引揚當地  
ニ喧傳セラルルヤ居留民ニ相當ノ動搖ヲ與ヘタルモノノ  
如ク任意引揚げヲ希望スル向多クナレル一方十一戰隊ニ於  
テハ例ニ依リ引揚運動ヲ開始シタル次第ナルカ當地ニ於  
ケル引揚げハ其ノ影響甚大ニシテ引揚げニ依リ却テ治安狀態  
ニ不安ヲ加フルカ如キ結果ナキヲ保セス又引揚げ後ノ生活  
ノ保障等社會問題ヲ伴フカ故ニ輕々ニ斷スヘカラサル次  
第ナル處本官トシテハ關係各方面ノ意嚮ヲ徴シ
- (一)任意引揚げ希望者ニ對シテハ之ヲ阻止セス

(二) 本月末ヨリ來月初旬迄ノ事態ノ推移ヲ靜觀シ最惡ノ場合ハ命令ヲ以テ引揚ケシムルモ右ノ場合ト雖男子ハ成ルヘク居殘ラシメ度キ意嚮ニテ然ルヘク居留民ヲ指導シ居ル次第ナリ

就テハ右ニテ差支ナキヤ折返シ御垂示相仰度ク尙命令ヲ以テ引揚ケル場合ニハ約二萬元ヲ要スル見込ナルニ付豫メ御含置キ相成度シ

支、北平、在支各總領事へ轉電シ、九江、長沙、沙市、宜昌、重慶へ空送セリ



110 昭和12年7月22日

広田外務大臣より  
在中国川越大使、在上海岡本總領事、  
在漢口松平總領事代理他宛(電報)

揚子江上流居留民の引揚げについては海軍中  
央の指示があるまで見合わすよう第十一戦隊  
に指令が下った旨通報

本省 7月22日発

合第六二二號(大至急、極秘)

長江上流居留民引揚ニ關シ第十一戦隊ヨリノ請訓ニ對シ何

分ノ指示アル迄見合ハスヘキ旨第三艦隊ヨリ訓令シタル趣  
ナリ海軍中央トシテハ引揚ノ時期ハ改メテ指示スル意嚮ナ  
リ尙本件ハ外務海軍充分連絡ノ上措置セラルル筈

本電宛先 支、上海、漢口、重慶、宜昌、沙市、長沙  
北平、天津、青島、福州、厦門、廣東、汕頭、香港ニ轉電  
セリ

支ヨリ南京へ轉報アリタシ



111 昭和12年7月23日

在中国川越大使より  
広田外務大臣宛(電報)

華北において一度戦端を開けば各地に戦乱波  
及のおそれがあり揚子江上流居留民の引揚げ  
は前広に準備の要ある旨意見具申

南京 7月23日前発  
本省 7月23日前着

第五七五號(極秘)

貴電第一四〇號ニ關シ(中支居留民引揚措置方ノ件)

一、長沙發海軍電ニ依レハ二十日唐炳初ハ何鍵ノ意嚮ナリト  
シテ同地碇泊勢田艦長ニ對シ

(イ)最悪ノ場合ニ於テモ警備艦在泊セストモ在留邦人ノ生命、財産ハ絶對ニ保護スヘク

(ロ)支那各地ニ在泊スル日本軍艦ニ對シテハ上海事變當時ノ如ク中立的態度ヲ以テ臨ムコト能ハス全面的開戦トナル場合ニハ中央政府ヨリ武裝解除ノ要求ヲ爲スヘキコトヲ命令シ來ルヤモ測ラレス此ノ場合何鍵トシテハ東洋民族相互ノ流血慘事ヲ欲セス苦慮シ居ル次第ナリト述ヘタル趣ナルカ警備艦ハ在留民ノ引揚ケサル間ハ引揚クルコトヲ得サルヘク結局支那側カ武力ヲ以テ武裝解除ヲ爲サントスル場合ニハ交戦スルコトトナルヘク而シテ右ノ如キ事態發生ノ惧アルハ獨リ長沙ノミニ止マラス長江沿岸各地共同様ナリトス

二、我長江在泊艦ニ對シ支那側カ敵對行爲ニ出ツル場合ニハ支那ニ於テ戰火ノ巷ニ置クコトヲ欲セサル地方ニ於テ我方ヨリ復讐ヲ受クルコトヲ覺悟セサルヘカラサルヲ以テ北支ニ於テ我軍カ中央軍ト兵火ヲ交ユル場合  
支那側カ直ニ長江筋ニ於テ我方ニ對シ敵對行爲ヲ執ルモノト斷スルハ稍早計ナルヘキモ今日支那側ハ舉國一致交戦ノ態勢ヲ整ヘツツアル點及支那軍隊内ニ於ケル抗日意

識ノ旺盛ナルコト上海事變當時ノ比ニアラサル點及我方モ空襲等ニ依ル後方攪亂ノ作戦ニ出ツルコトモアルヘキ點等ヨリ考察シテ北支ニ於テ一度支那軍隊殊ニ中央軍ト戦端ヲ開ク場合ニハ敵對行爲ハ上海事變當時ニ於ケルカ如ク一地方ニ局限セラレス意外ニ早く各地ニ波及スルノ惧多分ニアリ而シテ此ノ場合各地ニアル我居留民ノ安全ヲ充分確保シ得サルコトハ豫メ充分考慮シ置クコトヲ要ス(漢口ノ如キ陸戰隊ト支那軍隊トノ間ニ兵火ヲ交ユル場合ニハ我租界ハ忽チ兵火ノ巷ト化スヘク其ノ他長江沿岸各地ニ於テモ我警備艦カ支那側ト兵火ヲ交ユル場合居留民ノ安全カ充分確保セラレサルヘキコトハ漢口等ニ於ケルト大同小異ナリ)

三、右考慮ノ下ニ長江上流殊ニ漢口ヨリ上流各地ニ於ケル居留民ノ引揚ケハ前廣ニ準備スルノ要アリ殊ニ婦女子ノ引揚ハ中央軍ト交戦スルニ至ルヘキコト確實トナリタル場合ニハ之ヲ開始スルコト必要ト思考セラル  
上海、漢口ヘ轉電セリ

112 昭和12年7月23日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

揚子江流域居留民の引揚げ時期は中央で決定

ありたき旨意見具申

上海 7月23日後発  
本省 7月23日夜着

第五八五號(至急、部外秘、極秘)

支宛貴電第一四〇號ニ關シ

北支ニ於ケル協定履行ヲ見ス我方ト二十九軍トノ間ニ戦闘開始セラレ(昨今ノ情勢ニテハ右ノ可能性少キヤニ觀測セラル)延イテ中央軍ト衝突スル場合ヲ豫想セハ兵火ヲ交フルト同時ニ長江奥地ノ引揚ヲ開始スルモ少クトモ漢口下流ニ付テハ必スシモ遅キニ過キササルヘキモ之ニ反シ我方ニ於テ十一日閣議決定ノ方針ヲ變更シ北支ニ於ケル協定ニ拘ラス南京ニ對シ斷乎事變ノ責任ヲ追求スルノ態度ニ出ツルコトアリト假定セハ其ノ際ハ素ヨリ全支ニ亘リ急速事態悪化スヘキヲ以テ相當前廣ニ奥地ニ對シ引揚命令ヲ發スルコト絶對ニ必要ナリ

而シテ南京側カ積極的ニ北支ニ於ケル既成事實ヲ破壊スル

決心アリトハ觀測セラレサルニ付結局引揚時期ノ決定ハ(奥地ニ不安狀況發生セル場合ハ別トシテ)原則トシテ中央ノ御判定ニ俟ツヘキモノト思惟シ居タルニ不拘冒頭貴電御訓令ニ接シタルハ意外ナル處御承知ノ如ク長江警備海軍側ハ今回毛居留民至急引揚方強ク希望シ居リシ次第第二モアリ右貴電ノ如ク引揚時期決定ヲ出先官憲ノ裁量ニ委ネラルルニ於テハ當方ニ於テ如何ニ三艦隊司令部及海軍武官室ト聯絡ヲ圖ルニ於テモ到底上流ノ過早ナル引揚ヲ阻止シ得サルニ至ルコトヲ惧ル就テハ右御諒察ノ上今一應中央ノ御方針ヲ明確ニ御垂示相成度シ  
冒頭貴電ノ通り轉電セリ

113 昭和12年7月24日 広田外務大臣より  
在中国川越大使他宛(電報)

目下の華北情勢においては華中・華南方面の居留民は未だ引揚げを必要とする時期には至っていない旨通報

本省 7月24日後4時30分発

合第六五六號(極秘)

突發事件發生等ノ場合事態ノ變化ニ對應シ適宜裁量ニ依リ引揚方應急措置セラルヘキハ勿論ノ義ナルノミナラス政府方針ノ變更若ハ中央ニ於テ豫見シ得ヘキ狀況等ニ依リ引揚ヲ必要ト認ムル場合ニハ當方ヨリ即時何分ノ指示ヲ爲スヘキ處往電合第六四〇號ノ如ク現地協定ハ漸次履行セラレ居リ今後南京側ニ於テ積極的妨害挑戰行爲ニ出ツル等大ナル狀況ノ變化アラハ格別然ラサル限り十一日閣議決定ノ方針ニ依リ時局ヲ收拾シ得ヘキヤニ認メラレ旁々目下ノ情勢ニ於テハ現地近接地方ハ別トシ中南支方面居留民ハ未タ引揚ヲ必要トスル時期ニハ至リ居ラサルモノト存セララル宛先 在支各公館長  
至急情報通り轉電アリタシ

114 昭和12年7月29日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

宜昌居留民の引揚げを八月一日に実行すると

決定について

漢口 7月29日後発

本省 7月29日後着

第二九五號(極秘)

宜昌發本官宛電報

第二三號

大臣へ轉電アリタシ

第二〇號

往電第一九號ノ通り當地ノ情勢漸次惡化ノ徴アル處在留民月末決濟ノ關係モアリ且此處數日間ハ大體大丈夫ト判斷セラルルニ付八月一日早朝長陽丸ニテ引揚クルコトニ決定シ準備方在留民ニ命シ置ケリ

漢口ヨリ支、上海へ轉電アリタシ

重慶、沙市、長沙へ轉電セリ

115 昭和12年7月29日

在上海岡本總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

海軍省より第三艦隊に対して揚子江上流各地

居留民の引揚げ開始方指令があつた旨報告

上海 7月29日後発

本省 7月29日夜着

第六四七號(部外極秘)

貴電合第六九三號ニ關シ

廿八日海軍省ヨリ第三艦隊ニ對シ「今後日支全面作戰ニ迄進展スルコトアルヘキヲ豫期スル次第ニシテ此ノ際差當リ漢口ヨリ上流各地居留日本人ハ之ヲ引揚クルノ要アリト認メラルルニ付外務側ト聯絡ノ上現地ノ狀況ニ應シ機宜引揚ヲ開始セシムル様取計ハレ度キ」旨指令アリタル趣ニテ右ハ冒頭貴電ト相當開キアル處元來長江筋ニ於ケル海軍側ノ態度ハ中央ノ指令ニ基キ當地第三艦隊ニテ具體的ニ決定シ各地ニ訓令スル建前ニテ部内問題ノ處理ニ付常ニ當方ニ相談シ來ル事情ナルヲ以テ前記ノ如キ喰違アリテハ甚タ困却スル次第ナリ

尙當方トシテハ前記三艦隊トノ聯絡關係上或程度迄漢口上流ノ引揚ニ付テモ發言ノ必要ヲ感シ居ル次第ニ付貴電合第四二四號ノ次第ハアルモ必要ニ應シ當方ニ於テ上流ニ對シテモ引揚ニ關スル指令ヲ發シ得ル様御考慮相煩度シ支、漢口ヘ轉電セリ

116 昭和12年7月31日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

第十一戰隊司令官が居留民の全面的引揚げを  
強く求めているところ対応方針回示方請訓

漢口 7月31日後發  
本省 7月31日夜着

第三一九號(大至急、極秘)

往電第二五七號ニ關シ

「十一戰隊司令官ト何成濬トノ會見アリタルニ拘ラス同司令官ハ本三十一日本官ヲ來訪シ陸海軍武官同席シテ隔意ナキ意見ヲ交換セル席上ニ於テ北支事變ノ影響必スヤ長江方面ニ波及スル惧アルコトヲ斷シ全面的引揚ヲ要スル事態近キニアルコトヲ覺悟シテ用意スル必要アル旨強調セリ

三、右ハ第三艦隊司令官聲明ト相俟テ或程度迄海軍側ノ決意ヲ表明セルモノト考ヘラルル處果シテ然ラハ冒頭往電、ノ如キ手溫キ措置ニテハ間ニ合ハサル次第ナル處政府ニ於テハ十一日閣議決定ノ方針ヲ變更セラレ長江方面ニ波及スルモ厭ハス寧口北支ニ於テ中央軍トノ交戦ノ際海軍ヲシテ後方ヲ攪亂セシムルカ如キ決意ヲ有セラルルニ於テハ官民一同早目ニ引揚ヲ要スル次第ナリ

三、就テハ當地ノ事態ハ屢次電報ノ通りナル處政府ノ斷乎タ

ル方針御決定相成ルニ於テハ局地的治安關係等ハ問題ニ

ナラサル次第ニテ殊ニ當地ノ如キ袋ノ鼠ニ等シキ土地柄

ニ於テハ猶更之ヲ早目ニ考慮セサルヘカラサル次第ナル

ニ付テハ

(一)全面的官民ノ引揚用意シテ差支ナキヤ

(二)全面的引揚ノ場合ニハ無資力者(約八百名)ニ對シテ支

給スヘキ旅費及當座ノ生活費補助八萬元(冒頭往電四

ノ場合ヨリ四萬元多シ)ヲ支給セラレ度キコト

(三)租界ノ始末ニ付心得置クヘキコト等

ニ付大至急御回電相成度シ

支、上海へ轉電セリ

117 昭和12年7月31日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

重慶全面引揚げを八月一日実施と決定について

漢口 7月31日後発

本省 8月1日前着

第三二〇號

重慶發本官宛電報

第二四號

大臣へ轉電アリタシ

第三〇號

當地ハ漸次悪化ノ徴アルモ下流各地ニ比シ表面ハ依然平穩

ナリ然ルニ宜陽丸ハ二十四日出帆間際ニ停船シ既ニ一週間

ニ及ヘル爲種々謠言行ハルル一方長陽丸ハ二十七日宜昌出

帆後間モナク同地ニ引返シ日清上流航路中止ノ折柄宜陽丸

「パイロット」ニ對シ下船ヲ強迫スル排日分子出テ之カ阻

止ニ努メ居ル處元來宜陽丸ハ六年間モ上流ニ繫船シアリ本

年久振リニ就航シタル船ニシテ支那人船員ハ各方面ヨリ遽

ニ驅リ集メタル者ナレハ「パイロット」ハ豫テヨリ民生公

司ノ誘惑モアリ動搖シ居ル様ノ始末ナリ何分宜昌航路ハ

「パイロット」ナケレハ一步モ動ケサル特殊ノ航路ナレハ  
船長ハ「パイロット」ノ下船ヲ極度ニ恐レ居レリ

北支ノ戦局進展シ中央軍トノ衝突トモナリ統制アル排日運

動激化ノ曉ハ通信機關ノ發達、四川中央化ノ今日遠ク奥地

ノ當地モ殆ト下流ト同時ニ悪化スヘク現在ハ官憲力能ク取

締リ居ルモ其ノ時ニ至ラハ取合ハサルハ之迄ノ遺口ニ顧ミ

豫想シ難カラス往電第二八號ノ引揚準備ハ略豫定通り完成セルモ月末ノ集金完了後出發致度キ旨歎願スル者アリ之ヲ待ツモ支障ナキ見込ナルヲ以テ警備艦長トモ協議ノ上本官ハ八月一日在留民ト共ニ當地發漢口迄引揚クルコトニ決定セリ本官ハ二十九、三十ノ兩日賀國光市長吳澤湘警備司令警察局長等ヲ歴訪シ之迄當地排日運動ノ取締ハ行届ケルモ萬一事件發生セハ土地柄引揚難ニ陥ル惧アルノミナラス復歸ニモ影響スルヲ以テ不擴大ノ趣旨ニモ副フ爲早日ニ引揚クル次第ヲ説明ノ上遺留財産ノ保護方ヲ依頼シ市長トハ租界ノ治安維持ニ關スル公文ノ交換ヲ了シ更ニ遺留財産目錄ヲ添附文書ヲ以テ之カ保護方ノ手續中ナリ賀國光等ハ何レモ快ク承諾シ且本官ヲ答問日清碼頭附近ニ便衣隊ヲ派シ居留民ノ引揚準備ニ特別ノ保護ヲ加ヘ四川省内沿江各地當局ニ宜陽丸ノ保護方ヲ電命シ湖北官憲ニ同様電報セル趣ヲ語レリ

(漢口ヨリ)支、上海、北平、天津、鄭州ニ轉電アリタシ  
長沙、宜昌、沙市へ轉電セリ

118 昭和12年8月1日 在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

### 海軍側の長沙居留民引揚げ要求に対する措置

#### 振り請訓

漢口 8月1日前發  
本省 8月1日後着

#### 第三二三號(至急)

長沙發本官宛電報

#### 第三〇號

大臣へ轉電アリタシ

#### 第二九號

長沙居留民ノ引揚時期ニ關シ十一戰隊及三艦隊側ニテハ例ニ依リ非常ニ急立テ爲ニ居留民ヲ道連トシテ警備艦ヲ下江セシメントシ居留民ノ反感ヲ買ヒツツアル處本月廿七日勢多艦長ハ十一戰隊司令部ノ命ニ依リ引揚時期ニ關スル本官ノ豫定ヲ照會シ來レルニ付未タ豫定ヲ云々スルハ早キモ原則トシ(イ)當地邦商ノ月末決濟及代金回收ハ八月二日一杯掛ルニ付八月三日以前ノ引揚ハ不可能ナルコト(ロ)當地在留民カ重慶、宜昌ヨリ早日ニ引揚クル必要ハ毛頭認メサルニ付

大體(イ)ノ豫定ニテ行ケハ重慶、宜昌ノ居留民ト前後シテ漢口ニ到着スルコトトナル見込ニ付引揚げハ地方情勢ヲ見極メタル上八月三日以後適宜決定ノ積リナル旨内話セル處十一戰隊ニテハ八月一日漢口發ノ沅江丸ヲ三十日早發セシメ卅一日長沙着ノ上ハ之ニテ八月一日又ハ二日ニ總引揚ヲ行ハシメントシ來レルニ付艦長ヲ通シ前記(イ)ノ關係ヲ説明スルヤ今度ハ八月三日ヲ以テ長沙居留民引揚ノ時期トシテ待チ得ル最大限度ナリト言フカ如キ口吻ニテ急立テ居レリ(理由ハ明示セス)

勿論十一戰隊及勢多艦長ニ對シテハ右(イ)及(ロ)ハ問ハルル儘當方見込ヲ申シタル迄ニテ約束シ若ハ決定ヲ通知セル譯ニアラサル次第ヲ指摘今後現地情勢ニ依リ引揚期ヲ決定致度キ意嚮ナリト説明海軍側ニテ御急キノ事情ハ諒トスルモ何等明確ナル理由モ示サス唯急立テラルルコトハ居留民ノ反感ヲ益々大ナラシムル所以ナリト警告シ置キシモ昨今ニテハ何トカシテ本官ニ八月三日總引揚ノ命令ヲ出サシメンモノト執拗ニ迫リ此ノ上當地居留民側ノ利害關係、地方情勢等ヲ云々スレハ海軍側ハ本官ニ協調ノ精神ヲ缺クカ如ク言ヒ出ス惧アリ一方當地居留民ハ事件發生後拔本塞源の解決

ヲ希望シ場合ニ依リテハ自發の總引揚モ辭セサル決意スラ表明シ居リ本官ノ引揚勸告ニハ何時ニテモ應スヘキモ(イ)中央ニ於テ當地居留民カ現地ニ居殘ルコトヲ以テ不便ト認メラレサル限りハ當地ニ居殘リ度キ希望ヲ有シ(ロ)漢口日本租界居留民ノ引揚未タ外務、海軍共考慮シ居ラサル此ノ際時局ハ左シテ逼迫セリトハ思ハレストテ海軍ノ八月三日下江主張ヲ時期尙早トシテ反對シツツアリ

就テハ海軍側ト居留民側主張ノ中間ヲ取り現在入港中ノ沅江丸(定期ハ八月五日長沙發六日漢口着)ノ定期ニ依ルコトトシ五日迄待ツコトトセハ大體一般情勢モ判明シ引揚ヲ可トスル空氣トナルニ至ルヘク又右定期ニ依レハ停船命令ヲ出ス必要モナク從テ備船料(日清ハ一日四百弗ヲ要求本社本省間ノ協定ニ移シ度シト申出テタリ)支拂ノ要モナキニ付前記海軍側ノ意嚮ニ拘ラス五日午前六時迄ノ狀況ヲ見極メタル上大體定期ニテ引揚クルコトトシ同日ハ必要ニ應シ數日間程度ノ停船命令ヲ出スコトトシ差支ナキヤ御回電ヲ請フ

支、北平、上海へ轉電アリタシ

119 昭和12年8月1日 広田外務大臣より  
在漢口松平総領事代理宛(電報)

漢口居留民の全面引揚げは尚早と認める旨通報

本省 8月1日午後0時20分発

第五六號(大至急、極秘)

貴電第三一九號ニ關シ

政府ニ於テハ十一日閣議決定ノ方針ヲ變更シ居ラス旁貴地  
支那側ノ對日態度ニ關スル累次ノ貴電竝ニ官民ノ全面的引  
揚ノ及ス影響等ニ鑑ミ貴地ノ全面的引揚ノ實施ハ尙早ナリ  
ト認ム尙引揚時期ニ關シテハ中央ヨリ指示スル意嚮ナリ  
海軍側トモ協議濟  
支、上海ニ轉電セリ

120 昭和12年8月1日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

第三艦隊は揚子江上流居留民の引揚げは早目  
に実施すべきだが漢口居留民の引揚げは未だ

時期にあらずと考へている旨報告

上海 8月1日後発  
本省 8月1日夜着

第六八四號

漢口發閣下宛電報第三一九號ニ關シ

三十日長谷川第三艦隊司令長官談トシテ當地ニ於テ發表ノ  
聲明ハ居留民ニ對シ輕卒ヲ戒ムルト共ニ支那側ニ對シ慎重  
對處方注意ヲ喚起セルモノニシテ右ハ直ニ事態ノ全面的惡  
化ヲ暗示スル趣旨ノモノニアラス但シ艦隊側ニ於テハ將來  
事態進展シ日支双方空軍ノ衝突トモナラハ其ノ影響至大ナ  
ルヘキヲ豫想セラルルニ付斯ル事態ニ立至ル場合ヲ豫期シ  
全面的引揚ヲ決意スル時期モアルヘク之カ爲ニハ上流居留  
民ハ現地ノ事態ヲ考慮ニ入レツツモ早目ニ漢口迄引揚ケ置  
クコト然ルヘシト觀察シ居ルモ漢口ヨリノ引揚ハ未タ其ノ  
時期ニ到達シ居ラサルコトハ艦隊側ニテモ同意見ナリ  
艦隊承知濟  
支、漢口へ轉電セリ

121 昭和12年8月4日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

第三艦隊參謀長が漢口引揚計画の立案を要望

し上流域から漢口へ引揚げた居留民の上海な

いし内地引揚げを恣意について

上海 8月4日前発

本省 8月4日夜着

第七〇一號(極秘)

往電第六八四號二關シ

二日第三艦隊參謀長ヨリ本官ニ對シ極内密ノ話トシテ

(イ)北支ニ於ケル軍事行動特ニ敵ノ航空根據地爆撃等萬一事

態悪化ノ場合ニ處スル爲漢口ニ於テモ此ノ際最小限度ト

シテ引揚計畫立テハ至急立テ置クコト必要ナルヘク先般

十一戰隊司令官ヨリ松平總領事代理ヘノ話(漢口發閣下

宛第三一九號)モ右趣旨ニ外ナラスト述ヘ尙

(ロ)上流引揚民カ漢口ニ止マルコトハ漢口引揚ノ際足手纏ト

ナル惧アリ寧ロ此ノ際成ルヘク上海又ハ内地ヘ引揚ケシ

ムルコト然ルヘシト思料スル旨申出アリタルニ付

引揚決定上ノ狀況判斷ハ至難ニシテ現地ニ於ケル松平代理

ノ苦心ハ充分海軍側モ了解セラルル所ナルヘキカ(イ)ノ點ハ

漢口ニ於テモ既ニ計畫アル筈ナリ(ロ)ノ點ハ早速東京及漢口

ニ傳達シ考慮ヲ加フルコトニ取計フヘキ旨應酬シ置キタル  
カ衛生及食料購入等ノ點ヲ考慮スルニ上海又ハ内地ヘ引揚  
方適當ト認メラル  
支、漢口ヘ轉電セリ



122 昭和12年8月5日 在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

長沙居留民および領事館の引揚げ実施について

漢口 8月5日夜発

本省 8月5日夜着

第三五一號

長沙發本官宛電報

第三五號

大臣ヘ轉電アリタシ

第三四號

一、何鍵ハ中央ノ招電ニテ約一週間ノ豫定ヲ以テ一昨二日赴

寧セルカ其ノ後軍警當局取締ノ甲斐モナク市中ノ空氣ハ

北方情勢ニ刺戟セラレ日ニ悪化ノ一途ヲ辿リ三日ニハ邦

商使用支那人中外部ノ壓迫ニ堪エ兼辭任スル者續出シ

三日ニハ邦商ノ取引スル錢莊一戸奸商トシテ脅迫セラレ逃亡ノ結果邦商ノ月末勘定六軒分合計約二萬弗ノ手形不渡生スル等人心ノ動搖甚タシキニ付之カ交渉旁省政府ヲ往訪シ嚴重取締ヲ申入レタルモ當館「ボーイ」等ハ引揚後ハ不安ニ感シ居付カサル模様(省政府及警察當局ハ本日責任者及係員約十名ヲ當館其ノ他ニ派遣シ來リ極力引留策ヲ講シツツアリ)

二、本四日午前更ニ省政府ヲ往訪代理主席タル民政廳長竝ニ湖南全省保安處長ト會見(唐炳初外交係係官二名同席)引揚後ニ於ケル遺留財産ノ保管(目錄ヲ交付シ置ケリ)留守支那人ノ保護、家屋ノ管理其ノ他一切ノ後事ヲ託シ快諾ヲ得タルカ席上支那側ハ頻リニ別レヲ措<sup>(指カ)</sup>ミ時局ノ無事解決ヲ心カラ祈リテ同行ノ勢多艦長ヲ痛ク感激セシメタリ

三、本四日午後支那側立會ノ下ニ各家屋ノ封印(日附及省政府ノ緘印日附等ヲ附セリ)ヲ施行當館ヲ最後トシテ日沒迄ニ終了無事全員ヲ沅江丸ニ收容タ刻當館假事務所ヲ船内ニ移セリ

四、明五日未明出帆

支、北平、上海へ轉電アリタシ

123 昭和12年8月6日 在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

漢口からの全面的引揚げにつき承認方請訓

漢口 8月6日後発  
本省 8月6日後着

第三五五號(大至急、極秘)

往電第三五四號ニ關シ

支那側民衆ノ空氣俄然著シク惡化シ巡捕ノ逃亡ヲ手始メトシテ「ボーイ」、「アマ」ノ逃亡スル者續出シ生活必需品ノ購入困難トナリ支那側當局ニ於テモ意有ツテ力足ラサル状態ナリ加フルニ昨五日南京武官來電ノ次第モアリ本官竝ニ陸海軍武官ト協議ノ上十一戰隊司令官ト懇談シ租界ノ防備ヲ強化スル爲昨夜來租界内要所ニ土囊ヲ築キタル處租界附近支那街居住ノ住民殆ント逃亡シ陸戰隊ハ支那側正規軍ト直接對峙スルコトナリタリ本官ニ於テハ右ノ如キ事態ニ導クコトヲ極力避クル爲専心努力シ來タレルカ事茲ニ至リテハ微力ニシテ殆ント緩和ノ道ナク在留邦人ヲシテ恰

モ噴火山上ニ置クカ如キ状態ヲ招致セシメ眞ニ遺憾ニ堪エサル次第ナリ

就テハ上流各地領事トモ篤ト協議セルカ當方面事態ノ急迫ニ鑑ミ最早一刻モ猶豫スル能ハスニ在留邦人ニ對シ全般的引揚ヲ命スルヨリ外ニ道ナシトノ意見ニ到達セリ

就テハ右事態御賢察ノ上至急右ニ御承認賜リ度ク尙何分ノ儀折返シ大至急御回電相成度シ支ヨリ關係各館ヘ轉電アリタシ支、上海、九江、鄭州ヘ轉電セリ

124 昭和12年8月6日 在中國川越大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中国軍が漢口日本租界を包圍しつつあるため

同地居留民の全面的引揚げを至急実行し陸戦

隊や警備艦の撤退を進めるべき旨意見具申

南京 8月6日後発  
本省 8月6日後着

第六五九號(大至急)

漢口宛貴電第五六號ニ關シ

日高參事官ヨリ

政府ノ事態不擴大ニ關スル方針ハ充分察シ居ルモ今ヤ中央軍トノ衝突ハ單ニ時期ノ問題ナルヤニ觀察セラルル處五日伊太利大使ハ本官ニ對シ支那側ハ漢口日本租界ヲ包圍スル態勢ヲ取りツツアリ舊獨逸租界内ニアリテ日本租界ニ最モ近接シ居ル伊國領事館ハ日支交戦ノ場合甚タ危険ナル状態ニアル旨同國領事ヨリ累次電報越シ居ル旨内話セル次第モアリ日支兩軍カ對峙シ居ル場合北支ニ於テ中央軍トノ衝突アリタル場合ハ勿論然ラサル場合ニモ中央ノ意圖ニ關係ナク偶發的事故ニ依リ兩軍ノ間ニ衝突起リ得ルコトハ充分豫想セラルル所ニシテ一度兩軍間ニ敵對行爲ノ開始ヲ見タル場合孤立無援ノ漢口ハ通州ノ二ノ舞ヲ演スルコトナキヲ保セス左リトテ居留民ノ在留スル限り我陸戦隊及警備艦モ之ヲ撤退スルコト不可能ナルヘキニ付漢口ノ對日空氣モ惡化シ經濟絶交ノ機運モ醸成セラレツツアルニモ鑑ミ且陸戦隊ノ撤退ニハ陸上施設撤去ノ爲相當ノ時日ヲ要スヘキニモ鑑ミ此ノ際同地居留民ノ全般的引揚げヲ實行セシメラレテ陸戦隊及警備艦ノ撤退ヲ可能ナラシメラルルコトハ同地居留民保護ノ爲ノミナス同地租界ヲ戰禍ヨリ救フ爲ニモ必要

ト存セラル尙漢口居留民ノ引揚ト同時ニ九江、蕪湖、鎮江等ノ居留民モ引揚ケシメラルコト必要ト存セラル上海、漢口へ轉電セリ

125 昭和12年8月6日 広田外務大臣より  
在漢口松平総領事代理宛(電報)

漢口の全面的引揚げにつき承認方回訓

本省 8月6日後6時40分發

第六一號(大至急、極秘)

貴電第三五五號ニ關シ

居留民ノ全般的引揚承認ス貴官及必要ノ館署員ハ日清汽船一隻停船セシメ追テ何分ノ命令アル迄殘留アリ度シ支、上海、九江、鄭州へ轉電セリ  
支ヨリ冒頭漢口來電通り轉電アリ度シ

126 昭和12年8月6日 広田外務大臣より  
在漢口松平総領事代理宛(電報)

中国側当局に対し漢口居留民引揚げは無用の衝突を避けるためであり中国側も挑動的行動

に出て事態を拡大しないよう説示方訓令

本省 8月6日後11時20分發

第六三號(至急)

往電第六一號ニ關シ

貴官ヨリモ至急支那側ニ對シ本大臣發支宛電報第一六四號ノ趣旨ヲ御申入レアリ度ク尙其際我方ハ日支ノ大局ニ顧ミ今尙事態不擴大ノ主義ヲ堅持シ殊ニ長江方面ニ於テ我方ヨリ事態ヲ荒立ツルカ如キ意向ナク上流居留民引上ノ趣旨モ無用ノ衝突ヲ避ケンカ爲ニ外ナラサルヲ以テ支那側ニ於テモ右我方ノ意ノ存スル處ヲ了解シ今後共支那側ヨリ挑動的行動ニ出テ事態ヲ擴大スルカ如キコトナキ様篤ト説示セラレ度尙引上后ノ實際の措置方法ハ貴官ニ於テ支那側責任者ト一應取扱メラレタル上請訓相成度

「以下部外秘(極秘暗號)茲數日內ニ外交交渉ニ依リ事態收拾ノ途拓カルル望アリ、就テハ右含ノ上支那側ニモ説示アリ度尙貴地海軍側ニ對シテモ絶対ニ事ヲ起ササル様懇談セラレ度シ」

支、上海、九江へ轉電セリ

支ヨリ關係各館へ轉電アリ度

127

昭和12年8月7日

広田外務大臣より  
在鄭州佐々木(高義)領事代理宛(電報)

鄭州領事館引揚げ方訓令

本省 8月7日 前2時30分發

第一二號(大至急)

今後平漢線方面ニ於テ日支兩軍衝突ノ危険多分ニ存スルノ  
ミナラス漢口方面ノ情勢モ急激ニ惡化シ居留民全部引揚ノ  
コトトナリタルニ付テハ此際貴官モ領事館ヲ閉鎖ノ上速ニ  
飛行機ニヨリ上海ニ引揚クル等萬金<sup>(金)</sup>ノ措置ヲ執ラレ度  
支、北平、在支各總領事、滿ニ轉電セリ

128

昭和12年8月7日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

漢口居留民に引揚げ命令發出について

漢口 8月7日 前發  
本省 8月7日 前着

第三六四號(大至急、極秘)

往電第三五八號本省ニ到著前六日早朝民團參事會長、商工  
會議所會頭並ニ土着派代表來訪シ昨日來ノ物々シキ防禦陣

地構築ヲ目撃セル居留民ノ心理狀態ハ極度ニ不安ニ馳ラレ  
最早制止シ切レス且租界内支那人ノ逃亡者多ク生活ニモ支  
障ヲ來ス程ナルヲ以テ是非共全般的引揚命令ヲ發セラレ度  
キ旨請願セリ依テ本省ノ回訓アル迄正式命令ヲ發シ難キモ  
此ノ心構ニテ萬端用意スヘキ旨說示シ貴電接到ト共二十一  
戰隊司令官ト協議ノ上六日午後七時四十分正式ニ全般的引  
揚命令ヲ發出セリ

十一戰隊ニ於テハ極度ニ引揚ノ急速ナル實施ヲ希望シ本七  
日正午迄ニ乗船ノ完了ヲ強ク主張セルカ結局四時迄トシ曩  
ニ婦女子ヲ乗込マシメタル信陽丸、鳳陽丸ノ支那人乗客ヲ  
一時離船セシメ之ニ鯨詰ニスルコトニナレリ  
支、上海へ轉電セリ

上海ヨリ九江へ轉報アリタシ

129

昭和12年8月7日

広田外務大臣より  
在漢口松平總領事代理宛(電報)

生命の危険がなければ松平總領事代理は居留  
民引揚げ後も少数の館員とともに漢口に残留  
し租界の監視および情勢報告に従事方訓令

第六六號(大至急)

本省 8月7日後6時30分發

居留民引揚後ト雖モ租界ノ監視及貴地方ノ情勢等查報ノ爲必要ナルニ付生命ノ危険ナシトノ見込ナラハ貴官ハ必要ナル館署員少數ト共ニ貴地佛租界等ノ安全地帯ニ殘留暫ク形勢ヲ觀ラルルコトト致度(必要アラハ當方ヨリ佛國側ニ保護方申入ルルモ可ナリ)爾餘ノ館員ハ海軍ト同時ニ下江セシメラレ差支ナシ(從テ貴官等殘留員ノ爲日清汽船一隻停船ノ必要ナキ次第ナリ)

尙貴官殘留ノ場合ニ於ケル當方トノ通信方法ハ差當リ支那側電信ヲ利用スル他無シト認メラルルモ支那側ノ妨害等アル場合ニハ外國領事館ニ依頼スル等ノ方法モ考慮シ得ラルヘシト存セラル爲念(尙金一千圓也上海總領事館ヘ電送ノ上貴官ニ轉電方取計ヒ置キタルニ付右受領方法ニ關シテハ直接上海ト打合セラレ度シ)

支、北平、在支各總領事ニ轉電セリ

130 昭和12年8月8日

在漢口松平總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

漢口に殘留しても租界監視や情勢報告は不可  
能であり館員の総引揚げを承認方請訓

漢口 8月8日後發  
本省 8月10日夜着

第三七三號(大至急、極秘)  
貴電第六六號ニ關シ

一、居留民引揚後ニ於ケル當租界治安ノ維持ハ既報ノ通り支那側ノ好意アル協調的態度ニ依リ今ノ處大體順調ニ運ヒ居ル處今後館署員大部分ノ引揚ト共ニ租界ノ治安維持ハ事實上支那側ニ依リ代監セララルコトナル次第ニテ陳警察局長ノ如キハ自分(陳)ノ護衛隊ヲ本官等ノ身邊警戒ノ爲ニ派遣スル旨言明セルカ當租界ハ御承知ノ通り漢口市ノ東北端ニ位シ附近ニ細民街多ク租界内ノ遺留品ヲ掠奪セントスル暴民蜂起ノ惧アリ且海軍ノ撤退事實ハ一般民衆ニ租界回收熱ヲ深メシメ右ハ北支ノ事態悪化ノ消息傳ハル瞬間ニ於テ一舉ニ激發シ恐ラク官憲モ能ク之ヲ制止シ得サル状態ニ立到ル惧少カラス其ノ際本官力居リ乍ラ見ス見ス租界ヲ回收セラルルカ如キハ帝國ノ威信ニ關ハル次第ナルヲ以テ租界ノ保全ヨリセハ寧ロ今ノ中ニ出

來得レハ支那ヲシテ重慶ノ例ニ倣ヒ文書ヲ以テ一時代監  
 セシメ帝國總領事ノ復歸ト同時ニ無條件ニテ引繼キ我方  
 ニ於テ直接監理シ得ルコトヲ確約セシムルコト得策ナリ  
 ト存ス加フルニ支那側ニ於テ代監スルトセハ本官ハ一舉  
 手一投足ヲ監視セラルヘク事實上監禁セラレ外部トノ交  
 通モ意ノ如クナラス從ツテ他國領事トノ連絡モ事實上不  
 可能トナリ恰カモ捕虜ノ如キ立場ニ置カルル次第ナルヲ  
 以テ租界ノ監視情報ノ蒐集ハ全ク不可能ナルノミナラス  
 情勢ノ如何ニ依リ微小ナル行動ヲモ執ルコト能ハス不測  
 ノ禍ヲ招ク危險性大ナルモノアリ

二、尙又佛租界等安全地帯ニ殘(留)スルコト冒頭貴電御來示  
 ノ如ク考ヘラレサルニアラサルモ當地佛租界ハ共產黨其  
 ノ他不良分子ノ策源地ニシテ現在ノ日本租界ヨリ危險率  
 多キニ加ヘ佛當局ニ於テハ四、三事件ニ依リ引揚ノ際ニ  
 於テ遺留財産ニ對シテ安全保障ヲ與ヘサリシ例モアリ旁  
 現佛國領事ノ消極の方針ノ下ニ於テハ佛當局者ノ意嚮ニ  
 一拘ラス生命ノ保障ヲ爲スヤ甚タ疑問ナリ  
 三、殊ニ租界ヲ支那側ニ代管セシメ治安維持ニ當ラシメ乍ラ  
 總領事館ヲ閉鎖シ國旗ヲ下シテ佛租界ニ其ノ安全ヲ求ム

ルカ如キハ帝國代表者トシテ支那側ハ勿論同僚タル外國  
 領事ニ對シテモ全然面目ヲ失スル次第ニシテ本官ノ最モ  
 忍ビ難キ所ナリ

四、右ハ上流各地領事ニ於テモ意見一致シ居ル所ナルニ付本  
 官ハ支那側ノ同意ヲ求メ岳陽丸下級船員ノ動搖ヲ防キ不  
 取敢停船ヲ命シ置キタルヲ以テ今ノ所(三、四日)大丈夫  
 ト認メラルルニ付テハ敍上御賢察賜リ本官以下館署員全  
 部岳陽丸ニテ一律離漢引揚ヲ命セラルル様御配慮相成度  
 夕結果何分ノ儀大至急御回電ヲ請フ

支、上海へ轉電セリ

131

昭和12年8月9日

広田外務大臣より  
 在漢口松平總領事代理宛(電報)

漢口總領事館の総引揚げ承認方回訓

本省 8月9日後3時50分發

第七一號(大至急)

貴電第三七三號ニ關シ

十日晚貴地着ノ鄭州館員ト共ニ貴官以下館署員全部岳陽丸  
 ニテ一應上海ニ引揚ケラレ差支ナシ上海到着後ノコトニ就

テハ追テ電報スヘシ  
支、上海へ轉電セリ

132 昭和12年8月11日

在漢口松平総領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

漢口総領事館の閉鎖につき報告

漢口 8月11日前発  
本省 8月11日後着

第三八二號(至急)

貴電第七一號ニ關シ(館署員引揚ニ關スル件)

各般ノ後始末ヲ濟シ本十一日午後三時當館ヲ閉鎖シ本官以下館署員全部(五十二名)岳陽丸ニテ同四時出發十三日午前八時頃上海着ノ豫定

支、在支各總領事、北平へ轉電セリ

133 昭和12年8月14日

広田外務大臣より  
在中国川越大使宛(電報)

揚子江流域居留民の最終引揚げ船の安全運行

および南京残留邦人の保護を在本邦中国大使

へ要求について

本省 8月14日後2時45分発

第一九四號

本十四日許大使ト會談ノ際本大臣ヨリ我方ニ於テハ事端不擴大ノ爲ワザワザ揚子江筋に留官民ヲモ引揚ケシメタル次第ナル處其ノ最後ノ一船タル岳陽丸ハ支那側ニ依リ下江ヲ止メラレタルハ甚タ遺憾ニシテ斯ノ如キハ我國民ノ感情ヲ刺戟スルコト大ナルニ付至急安全下江方取計ハレ度ク尙南京ニハ日高參事官初メ我方官民多數殘留シ居ル處是等ハ萬一ノ場合ニハ安全地帯ニ引揚ヲ要スル次第ナレハ是等ノ點支那側ニ於テ十分配慮アリ度キ旨申入レタル處許大使ハ國民政府ニ於テモ十分保護ニ任シ居ルコトトハ存スルモ右ノ次第早速本國政府ニ申送ルコトトスヘシト答ヘタリ

上海ニ轉電セリ

134 昭和12年8月14日

在中国川越大使より  
広田外務大臣宛(電報)

事態悪化に伴う南京大使館員の縮小につき請訓

## 2 邦人引揚げ問題

第七四五號(大至急、極秘)

日高參事官ヨリ

日支ノ時局ハ遺憾乍ラ刻々悪化ノ傾向ニアルヲ阻止シ難ク殊ニ今十四日朝支那側ノ上海爆撃ニ依リ同地ニ於ケル事態ハ今ヤ最悪ノ場面ニ立至リタルモノト認メラルル處當地ニ於テハ既ニ居留民殆ト全部ヲ引揚ケ(現在残留者十名)タルハ勿論陸海軍(武官)室側ニ於テモ此ノ事態ニ於テハ任務ノ遂行最早不可能ナレハ速ニ引揚クルニ如カストノ意見ニ到達セリ

本官トシテハ南京ニ於ケル緊迫セル空氣、使用人ノ動搖、食料購入ノ困難、上海トノ交通ノ杜絶等種々ノ困難ニ拘ラス諸外國大使等尙滞留中ノコトニモアリ殊ニ日支國交極メテ嚴重ナル此ノ秋ニ當リ

最後ニ至ル迄萬難ヲ排シ館員ヲ率ヒテ大使館本來ノ任務ノ遂行ヲ期シ度キ所存ナル處若シ事態更ニ悪化シ何等ノ措置ヲ執ルノ必要ニ迫ラレタル際ニ於テ尨大ナル館員ヲ擁スルコトハ行動ノ自由ヲ妨ケラルル惧アルニ付テハ此ノ際當館

南京 8月14日後發  
本省 8月14日夜着

館員ヲ是非必要ナル人員ニ切り詰メ爾餘ノ者ハ引揚ケシムルコトト致度ク差當リ別電第七四六號<sup>(電報)</sup>ノ(甲)ヲ残留者トシ(乙)ニ列記ノモノハ明十五日午前十時發津浦線列車ニ依リ(船ニ依ル引揚不可能トナリタルコト往電第七四七號ノ通り)上流各領事館員竝ニ陸海軍武官及職員ト共ニ濟南經由青島ニ引揚ケシムルコトト致度キ處右様取計ヒ差支無キヤ大至急御回電請フ

尙本官以下残留ノ館署員ハ此ノ上トモ任務ノ完全ナル遂行ニ微力ヲ盡シ度キ覺悟ナルモ萬一ノ事態ニ立至リタル場合ニハ本官ノ裁量ニ依リ適宜ノ方法ヲ以テ引揚クルコト已ムヲ得サルヤニ認メラルルニ付テハ此ノ點併セテ豫メ御許可賜ハリ度シ

尙又陸海軍武官及職員ノ引揚ニ付テハ中原海軍左方陸軍兩武官ヨリ夫々海軍及陸軍本部ノ承認取付方申出テアリタルニ付大至急御取計相煩度シ

別電ト共ニ上海、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ

135 昭和12年8月14日

広田外務大臣より  
在中国川越大使宛(電報)

南京大使館員全員の引揚げ方訓令

本省 8月14日午後11時50分発

第一九八號(大至急、極秘)

貴電第七四五號ニ關シ

本十四日朝上海ニ於ケル支那飛行機ノ爆撃ニ依リ海軍ノ態度硬化シ英米佛各國領事ノ十三日申出モ遂ニ海軍側ノ意見纏ルニ至ラス海軍ハ尙明日以後上海附近ノミナラス杭州、廣徳等各地支那側工場ノ大規模爆撃ヲ行フ方針ニテ(當方ニテハ貴地ノ爆撃ハ是非共見合ス様目下海軍側ト懇談中)事態斯クナリテハ貴地ニ於ケル貴官以下ノ生命財産ノ安全モ俄ニ保障シ難キ次第ナルニ付テハ此ノ際冒頭貴電(乙)ノ人員ノミナラス(甲)ノ人員モ全部御來示ノ如ク津浦線經由(貴電第七四七號未着ナルモ支那側トノ話合ニ依リ外國船、支那軍艦等ニテ上海ニ)引揚ケラルルコトト致度シ

陸海軍武官ノ引揚ニ付テハ夫々海軍及陸軍本部ヨリ承認アリタリ

在支各公館ニ轉電セリ

136 昭和12年8月15日 在中国川越大使より  
広田外務大臣宛(電報)

南京大使館残留館員の撤退準備には八月十五日

日一杯を要する見込みについて

南京 8月15日前発  
本省 8月15日前着

第七六〇號(大至急、極秘)

貴電第一九八號ニ關シ

日高參事官ヨリ

明十五日午前十時ノ津浦線列車ニテ引揚ケルコトハ殘務整理及列(車)ノ都合上遺憾乍ラ不可能ナリ最善ヲ盡クスヘキモ本官以下殘留館員ノ撤(退)準備完了ハ少クトモ明十五日一杯ヲ要スル見込不取敢(不在)

關係各館へ轉電セリ

137 昭和12年8月15日 広田外務大臣より  
在中国川越大使宛(電報)

撤退準備が完了次第大至急引揚げ方訓令

本省 8月15日午後0時35分発

第二〇〇號(大至急、極秘)

貴電第七六〇號ニ關シ

日高參事官へ

貴地ノ引揚振竝ニ濟南及山東沿線ニ對スル引揚訓電ニ關シテハ作戰上ノ必要モアリ本十五日午前中ニ參謀本部ヨリ天津軍ニ電話聯絡ノ上、關係在留民ノ安全引揚ニ付遺憾ナキヲ期スル筈ノ處冒頭貴電ノ準備完了次第貴官ハ殘留館員ト共ニ出來得ル限り速ニ南京ヲ引揚ケラレ度念ノ爲(海軍側ヨリ本日南京、南昌、蘇州及虹橋等ノ飛行場ヲ爆撃スル旨通報越セリ)尙陸軍側トシテハ貴官以下ノ殘留館員ハ出來得レハ飛行機ニ依リ直接青島ニ引揚ケラレムコトヲ希望シ居レリ(追テ佐方、堂ノ脇、及御厨ノ各武官ハ本朝既ニ出發濟ノコトト存スルモ參謀本部トシテハ佐方丈ハ貴官ト行動ヲ共ニセムコトヲ希望シ居レリ)

冒頭貴電ト共ニ上海、北平、天津、濟南、青島へ轉電セリ

138 昭和12年8月16日 在濟南有野總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

南京からの津浦線による引揚げ者の濟南到着

二二二二

第二八五號(至急)

濟南 8月16日前發  
本省 8月16日前着

長江上流各地領事館署員及南京ノ一部竝ニ中原海軍坂田陸軍各輔佐官、新聞記者六名、漢口三菱支店長、岳陽丸及大貞丸船長以下乗組員等合計百四十五名豫定通り昨十五日午前十一時十五分支那憲兵四十名警護ノ下ニ浦口出發今朝四時半當驛ニ到着セリ膠濟線ニ入レ替ヘノ上五時四十五分青島ニ向ケ發車セリ

南京館員ノ語ル所ニ依レハ南京ハ參事官以下殘留者二十一名ニシテ目下引揚方法トシテ第一案飛行機ニ臺雇入レ交渉、第二案支那側警護ノ下ニ汽車ニテ濟南經由青島行交渉中ニテ本列車出發前ハ右何レトモ未定ナリシ由ナリ

尙右外務省各館引揚者ノ希望ハ青島(脫)ノ上同地ニ數日間滞在シ其ノ間本省ニ對シ將來ノ進退ニ付請訓ヲ仰ク一方殘務整理ヲ爲シ度キ趣ナリ  
支、北平、天津、青島、上海へ轉電セリ

139 昭和12年8月18日 在青島大鷹総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日高參事官以下南京大使館員の青島到着について

青島 8月18日前発  
本省 8月18日前着

第三六八號(至急)

日高參事官ヨリ

本官及館員一行二十三名(外交部員一名附添ヒ憲兵六名警護)十六日午後五時浦口發途中無事十八日午前零時四十五分青島ニ到着セリ

北平、天津、上海へ轉電セリ

140 昭和12年8月23日 在上海岡本総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

邦人の引揚げ状況および上海残留者数につき報告

上海 8月23日後発  
本省 8月23日夜着

第一〇六六號

一、八月十五日ヨリ二十二日迄二出帆シタル避難者輸送船ハ

龍田、樂洋、長江、上海、長崎、諏訪、高砂、安洋、富士、長崎及上海ノ十一隻ニシテ其ノ引揚人員ハ一萬四千三百人ナリ今後萬一ノ引揚ニ備フル爲安洋丸ヲ當地ニ呼寄セ待機セシムルコト、ナリ同船ハ二十四日朝入港ノ筈北支事變勃發後十五日迄二本邦船及外國船ニ依リ歸國シタル者ハ確數判明セサルモ少クモ三千乃至四千名ニ上ル見込ニシテ從テ現在ノ残留者ハ六、七千人ト推算セラル目下調査中

残留者ハ官吏、公務者、紡績會社工場員、會社員、時局委員會奉仕者、在郷軍人等現狀ニ於テハ猶當地ニ留マルコトヲ必要トスル者ノ外相當多數ノ生活困窮者ナリ

二、前記十一隻ノ避難者船賃ハ會社ニ對シ民團總括的ニ保障シ無切符ニテ乗船セシメ民團吏員一名又ハ二名ヲ乗込マセ船中ニ於テ可及的調査ヲ行ハシメ又要求護者<sup>救護者</sup>ニ對スル内地汽車賃ハ夫々長崎縣及兵庫縣へ立替支給方依頼セリ(其ノ後貴電第三五〇號ヲ接到シタルモ民團トシテハ支給額ノ公正ヲ期スル爲成ルヘク縣ノ立替支給ヲ希望シ居レリ)

當館ノ避難證明書ハ略全部ノ避難者へ所持セシメタリ戰

禍勿々ノ間旅費ノ準備等ナク殆ント着ノミ着ノ儘乗船シタル者多キニ付結局右避難船ニ依ル引揚者ニ對シテハ其ノ大部分ニ救護旅費ヲ支給スルコト、ナルヘシ

三、第一項末尾ノ生活困窮者ハ殘留セシムレハ引續キ救護セサルヲ得サルニ付當地ニアリテ何等カノ役ニ立ツ者ノ外ハ此ノ際救護旅費ノ外大人三十圓、十二歳未満十五圓宛ヲ給シ成ルヘク歸國セシムルコトニ決シ二十二日出帆上海丸ヨリ右取扱ヲ始メタリ

四、右取扱ハ二十二日以前ノ引揚者中生活困窮ヲ告クル者ニモ適用スヘシトノ強キ要望起リ居ル處右救濟ハ内地關係地方廳ニ於テ行ハル、ヤ民團指導上至急承知致度キニ付折返シ回電アリタシ